

## 環境保全・美化活動



# うららの川は、うららで守る

## —川クリーン大作戦—

池田町は、川の流域に集落が点在しており、ふだんの暮らしと川とは、切っても切れない関係をもってきました。

今でこそ農林業に専従する人が減り、直接関わることも少なくなってきましたが、それでもなお川は、私達にとって、最も身近な自然の存在といえるでしょう。

生活の場であった川は、かつては生活の仕方そのものが、川との共存に適したものとなっていたのではないかと思います。それが、人間の生活スタイルが変わり、川を必要としなくなるにつれて、川を単なる「水が流れる場所」としか認識しなくなり、何でも流してしまうことに抵抗が薄れてきたのではないかと思います。

池田町の川は幸い、極端に汚れた状態にまでは至っておらず、一見、清流が美しく残されているようにも見えるほどです。でも、川に入ってよく見れば、やはりスーパーのポリ袋や、肥料袋、空き缶類など、様々なものが目立つようになりました。

「昔の川を取り戻したい」

こうして、まちおこし21が中心になって、町の人たち全員で取り組む「川クリーン大作戦」が始まりました。

春、雪解けを迎えると、町内で一斉に河川周辺の清掃活動が行われます。

川の清掃は集落単位で、それぞれ集落の事情に合わせた方法で行われます。

様々な方が、思い思いの道具を持って、参加していただきます。ゴミを拾ったり、不法投棄された粗大ゴミや危険物などを回収したりしていきます。

毎年行われる成果もあって、年々集まるゴミの量は減ってきていますが、それでも4トン車に2台程度は集まります。

川の維持については、このほか、春から夏にかけての草刈りなども、主に集落単位の判断で、適宜行われています。

「うらら（福井弁で私達の意）の川を、うららで守る」

川の維持活動は、目に見える「共助」の活動として最も根付いたものといえるでしょう。







# 在来種を守れ!

## —セイトカアワダチソウ駆除活動—

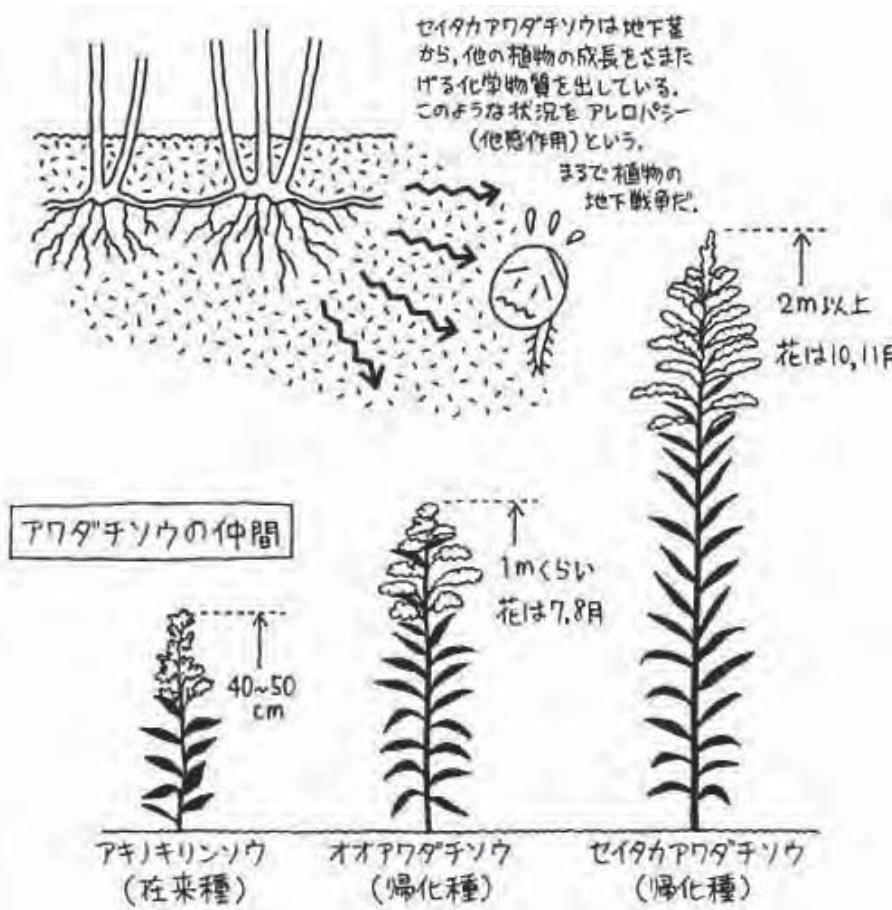
川沿いや空き地で、毎秋に見かけるセイトカアワダチソウ。背が高く、風になびく黄色い花が特徴です。

セイトカアワダチソウは、北アメリカ原産の、いわゆる「外来種」。土手や荒地に生える多年草で、地下茎を四方八方に伸ばして、その先から芽を出すため、非常に繁殖力が強く、3～4年で大群落になります。

また、根から他の植物の発育を妨げる物質を分泌するため、生息域内の在来植物は壊滅的打撃を受けてしまいます。ススキでさえ負けてしまうほどだそうです。そして、10数年ほどすると、セイトカアワダチソウ自身が自

家中毒状態となって根絶え、その後は雑草1本生えない荒地となってしまいます。

池田町でも、工事車両などが運ぶ土砂の中に混じったりして、町内の各地でこのセイトカアワダチソウがみかけられるようになりました。幸い、極端な大群落はできていないため、今のうちにできるだけ早く撲滅をと、まちおこし21が平成13年に立ち上がり、環境団体に声をかけて、毎年秋（根絶させるには別の季節が適していますが、花の頃がもっとも見分けやすいため、秋を選んでい）に駆除活動を行っています。





セイタカアワダチソウ分布図

(平成17年秋現在。この地図をもとに駆除活動し、現在はかなり少なくなっている)





# この空気、この景色、残したい

—その他の環境保全・美化活動—

## 様々な清掃活動

職場単位や集落単位、あるいはボランティア団体等の協力で、道路や建物周辺のゴミ拾いやなどの活動が、各地で行われています。

## 遊歩道整備・草刈り

山の中の遊歩道や、林道沿いの草刈りなどの手入れも、ボランティア団体等が連携して行っています。

## 不法投棄監視・回収

山中の道路から落とされたような粗大ゴミなども見受けられます。集落などから寄せられる情報を基に回収活動を行ったり、監視を心がけたりしています。

## 野焼き（自家焼却）ストップ活動

農作業の合間に緩やかに立ち上る焼き畑の煙。それなりに情緒ある風景でした。

昔は枯れ草や落ち葉など、自然に還るものばかりでしたが、現在の自家焼却は有害な化学物質を発生させるゴミの焼却が大半を占めています。

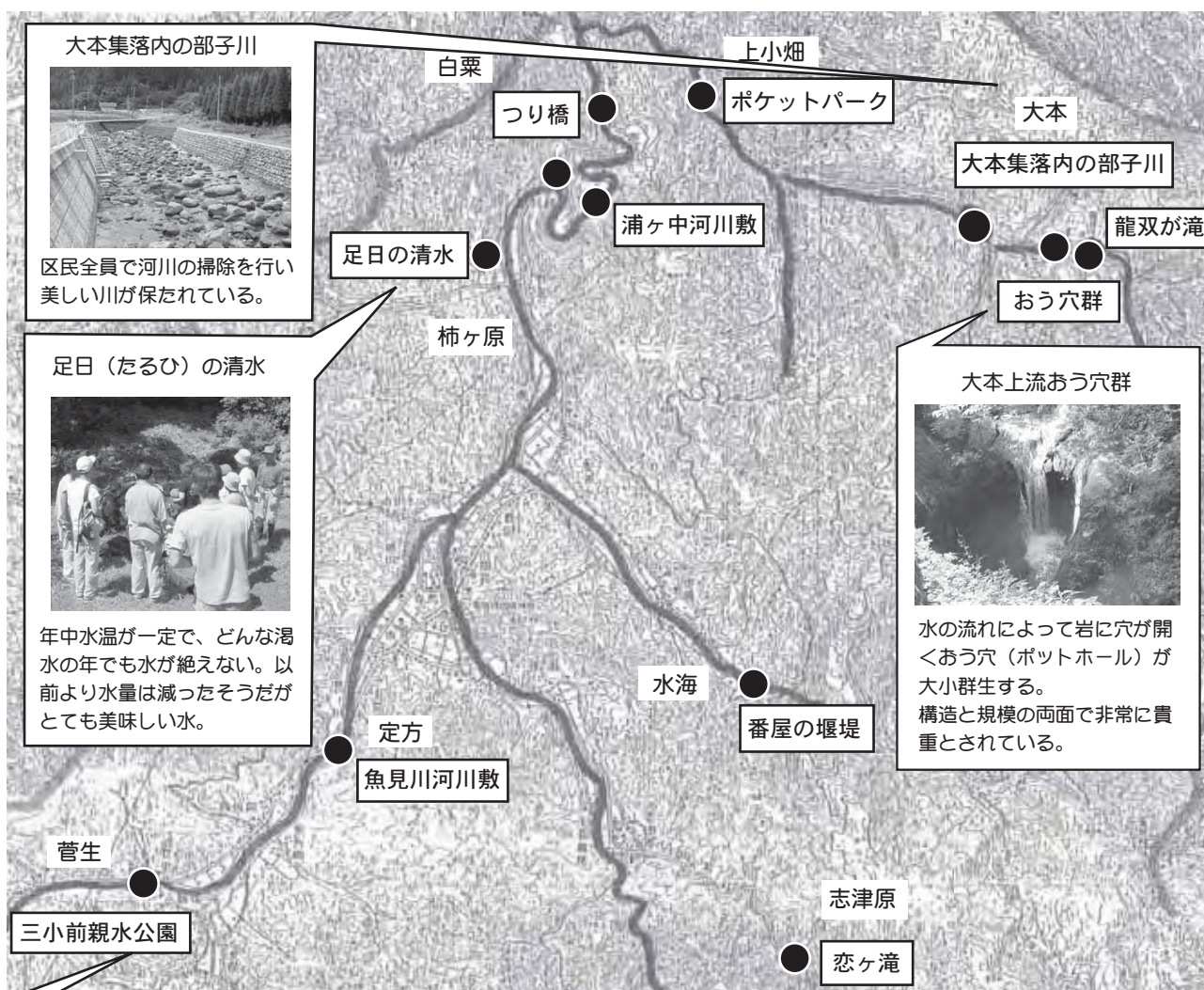
昔ながらの習慣をすっかり変えてしまうのはなかなか難しいものですが、現在では野焼きは環境破壊の一つであることを、農家の方に根気よく理解してもらい、協力を呼びかける地道な努力を続けています。

## 花いっぱい運動

各集落で花の苗を植え、緑の景観を保つ運動です。婦人部や老人クラブ、母親クラブなど、さまざまな団体が協力して、各地で展開しています。



## 水源地で暮らす誇りと重み



大本集落内の部子川



区民全員で河川の掃除を行い美しい川が保たれている。

足日（たるひ）の清水



年中水温が一定で、どんな渇水の年でも水が絶えない。以前より水量は減ったそうだがとても美味しい水。

大本上流おう穴群



水の流れることによって岩に穴が開くおう穴（ポットホール）が大小群生する。構造と規模の両面で非常に貴重とされている。

第三小学校前 親水公園

地元の要望で実現した親水型自然工法の護岸。自然石で組まれており、川の中にも岩を配置、子供も安心して遊べる。



池田町は川の流域と生活域が一致する「川の都」でもあります。足羽川の水源地に当たり、魚見川、東俣川、水海川、部子川などの支流を集めて北流し、福井市内を流下して日野川と合流、さらに九頭竜川に合流して海に注がれます。

それぞれの流域でたくさんの湧き水や滝などがあり、水とふれあうポイントがあります。

源流地域で暮らす者として、これらの川を、守る責務を重く受け止めています。



# すべての生命たちが、住み続けられるように

## —水生生物環境調査—

池田町を流れる川、その周辺に広がる山里の豊かな自然。誰もがその恩恵にあやかりながらも、今では直接関わる機会が減り、急速に遠い存在となっています。

身近な自然に触れることができなくなった現代の親子の方を対象に、実際に川に入っ  
てふれあい、現状を調査する機会を持つことで、自然の素晴らしさと大切さを肌で感じてもらおうと、まちおこし21が中心となって続けられている活動が、水生生物調査です。

豪雨災害の影響などで、やむを得ず中止にしなければならない年もありましたが、ほぼ毎年、町内で3箇所調査しています。

夏休みを利用し、午前中は、専門家の指導を仰ぎながら、水生生物をすくい取って調査し、午後からは川遊びを楽しんでいます。

参加する子どもたちはもちろんのこと、大人も目を輝かせて、感激したり、夢中になったりしています。











## 環境イベント・研修



## ゆれるあかりに、心かよわせて —いけだエコキャンドル—

池田町が目指す、自然や人、生活文化などの資源や技術を結びつけた「地域資源連結循環型農村」。この取り組みのひとつに、廃油の資源再生化運動「菜の花プロジェクト」がありますが、エコキャンドルはその一環で始められたイベントです。

家庭で不要になった食用油からリサイクルして作りあげた廃油ろうそくを、秋の夜、町内で一斉に点火します。

柔らかかに揺れる灯り、穏やかに流れる時間。エコキャンドルを通し、忙しく過ごすうちに何か置き忘れたような日常を、静かに見つめ直すきっかけとなることを願っています。

エコキャンドルは、廃品利用のリサイクルでつくられていきます。

牛乳びんのフタに芯になる紐を結んで芯づくり。ロウは、使用済みの天ぷら油です。

大きな鍋に廃油を温めて凝固剤を混ぜ、プリン容器に手早く流し込んでいきます。その中に、静かに芯を沈めて、冷めれば完成。一つひとつ、手作りしていきます。

そして、エコキャンドルは、たくさんの方々の協力に支えられています。

牛乳びんのフタは、町内や近隣の小中学校で集めていただきました。芯づくりには、デイサービスやふれあいサロン、ひまわり作業所の方々が参加してくださいました。そして

ロウづくりには、環境団体を初め、たくさんの方々が、仲間や親子で参加してくださいました。

その他にも、灯籠の絵を描いたり、竹細工などのオブジェづくりに参加して下さったり、数え切れないほどの方々が関わってくださっています。そして当日も、ロウソクを並べて点火し、後片付け・分別回収まで手伝ってくださる大勢のボランティアに支えられています。

エコキャンドルは、まちのみんなが支える手づくりイベントです。

エコキャンドルの最大の特徴は、この「みんなが参加する手づくり」という点でしょう。

町内有志が実行委員会を立ち上げ、行政と環境団体が協働で企画準備。このため、枠にとらわれない柔軟なアイデアも生まれ、また自分たちでイベントを作り上げるといった熱い思いが周囲に広がっていきました。

キャンドルイベントは、全国各地で実施されていますが、芯づくりから設置、点火、消火後の分別回収まで、すべての工程を町民全体の力で完成させているイベントは、全国にも例がありません。

「万の灯り、ゆれて心ひとつ」

池田のエコキャンドルは、まちの人々の心をひとつにまとめ、未来へつなげています。





万の灯り、  
ゆれて心ひとつ。





# 大海を知って、さらに前進

—いけだ環境町民集会—

全国で展開されている様々な活動を知ること、改めて池田町内の環境を見つめ直すきっかけとなります。また、普段それぞれの場所で活動している池田町の仲間が一堂に集うことで、お互いに情報交換を行い、新たな活動のエネルギーをもらうことができます。

そこで、農閑期で集いやすい雪の期間を利用して、講師を招き活動報告する環境集会を開いています。不定期に企画されてきましたが、平成14年12月に開催された環境シンポジウム（まちづくり推進大会併催）での反響を踏まえ、平成16年から本格的に毎年開催されるようになりました。

環境集会は、環境Uフレンズ、環境パートナー池田、まちおこし21が主催し、広く町内全体へ参加を呼びかけています。

集会は、町外で活躍する団体の代表者などを講師に呼んでお話をきくパートと、町内の活動を紹介・報告し意見交換するパートとで構成されています。

この他、会場内で各団体の活動状況を展示したり、臨時の資源回収所を設けたりして、来場者への意識向上も図っています。

なお、いけだ環境町民集会のほかにも、さまざまな講演やシンポジウムを開催したり、視察研修などの勉強会を適宜行っています。



第1回いけだ環境町民集会 (H16.2.22)

講演「まちづくりはみんなの手で」

講師 岡山県吉永町水を守るグループ代表 岡本富美子氏

活動報告 エコポイント大作戦報告／池田町のゴミの現状報告／東俣産廃問題の現状と課題





第2回いけだ環境町民集会 (H17. 2. 20)

講演「環境を切り口に商店街の活性化」

講師 早稲田商店会会長 安井潤一郎氏

活動報告 セイタカアワダチソウ撲滅作戦

エコポイント事業

食Uターン事業

東俣女性部学習会

パネルディスカッション

「環境とまちづくり～自助・共助・公助～」

第3回いけだ環境町民集会 (H18. 2. 26)

テーマ「水がつなぐ山・里・海

～足羽川水系を考える～

講演「森は海の恋人 人の心に木を植える」

講師 牡蠣の森を慕う会代表 畠山重篤氏

パネルディスカッション

「山・里・海出会いトーク」

エコネイチャー・彩みくに

一乗観光フリーサービスクラブ

美山まちづくりNPO

環境パートナー池田



その他学習会・シンポジウム・視察等







# 教育との連携



# 子どもたちへ残すのは、技と心

—子ども池田学講座—

テレビゲームも DVD もない昔の子どもたちは、山里ぜんぶが毎日の遊び場でした。

大きい子も小さい子も、いっしょになって遊びました。ケンカもたくさんありましたが、互いに限度を心得ていました。季節ごとに様々な場所で、さまざまな自然のものを道具にして遊び、生活の知恵を体得していきました。子どもなりに、自然の中で社会を形成していたのです。

こころが現代では、社会状況が大きく変わり、山や川は危険な場所となって、遠ざけられてしまっています。

また、少子化が進み、学年別の行動が増えたため、大勢の子どもがまとまって遊ぶということもなくなってしまいました。

このままでは、とても大事な何かが失われたままになってしまいます。

そこで、池田町というふるさと全体を、大きな遊びのフィールドとして、季節ごとの楽しみ方や昔ながらの遊びを子どもたちに伝えていこうと、池田町の公民館が主体となり、小学校のPTAや総年収団連絡協議会、山の会、歴史の会、地域活動連絡協議会など、さまざまな団体が協力し企画運営しているのが「子ども池田学講座」です。

池田町では、こうした遊びを通して池田の自然とふれあい、池田固有の歴史や文化を体得していくことを、「池田学」と呼んでいます。

この親子池田学講座の他にも、町内の小中学校で、地域の人を講師にした授業なども行っています。池田学講座の「先生」も、もちろん地域の人たちです。

## 「池田学」講座内容一覧

### 春の山野編

秘密基地づくり、食べられる山野草探しと調理・実食 など

### 夏の川原編

水辺の生き物調査、川遊び、ワイルド地獄鍋 など

### 秋の山野編

缶蹴り遊び、とうちゃんとプチ・サバイバル、きのこ鍋 など

### 冬のたんぼ編

雪遊び、かまくらで焼き餅 など





# 生命をいただいて、大きくなるんだよ

—親子食育講座—

大半の家庭が田んぼや畑を持っている池田町では、ふだんから旬の野菜が完熟・とれたての状態でご飯に並び、大勢の家族と一緒に食事をいただく環境が残っています。それでも、生活スタイルの変化は池田町内にも及んでいて、若い世代になるほど、池田町で育まれた食文化を全く知らないという人が増えてきています。

こうした食の環境への考慮から、「親と子の池田学講座」に、食文化の伝承を目的とする「親子食育講座」も加わりました。

季節ごとに、山野で食材を採って調理したり、農作業を体験したりし、手に入れた「生命」をありがたく食するという食育体験学習です。

食育関連では、その他にも町内の小中学校で体験プログラムを企画したりしています。

また学校給食では、地元で取れた野菜や、週に3回ある米飯給食に池田町産コシヒカリを使用するなど、地産地消を推進しています。

給食の前に、当番さんが、どこの誰が作った野菜が使われているかをみんなに説明して、生産者への感謝する心を養っています。

学校給食の食材に占める地元食材の割合は、約25%です。天然塩を用い、鰹節からダシを取るなどして化学調味料を一切使わない、体に優しい給食を提供しています。

## 「食育講座」講座内容一覧

### 春の風土ふ〜ど体感

田植え体験、ほうば飯、豆腐・こんにゃく田楽 ほか

### 夏の風土ふ〜ど体感

太・細巻寿司、ふじ寿司、手作りマヨネーズ、夏野菜カレー ほか

### 秋の風土ふ〜ど体感

稲刈り・収穫祭、ます寿司、大豆とじゃこのからめ揚げ ほか

### 冬の風土ふ〜ど体感

もちつき（寒もちづくり）、とちもち、よもぎもち、おろしもち ほか





# 母さん、捨てちゃダメだよ

## ーエコポイントキッズキャンペーンー

環境行動を家庭内に浸透させ、次世代へと継承させるためには、親子での参加を促すことが欠かせません。

そこでエコポイント事業でも、親子で参加をしていただく企画として、「エコポイントキッズキャンペーン」を、毎年夏休みに小学生対象に展開しています。

キャンペーンの内容は、毎回少しずつ変化を持たせていますが、主なものとしては次のようなものが挙げられます。

### エコマークの収集

普段からマークを意識する習慣を付け、再生商品の利用を促すことが狙いです。

### 紙パックの収集

資源ゴミの中でも、特に紙パックは良質なリサイクル源であり、「洗って開いて乾かす」分別保管の手間を習慣づけてもらう狙いも込めて、牛乳の消費等、子どもにも身近である紙パックの回収を進めています。

### ペットボトルキャップ

ペットボトルを分別して出す際、そのままとプラゴミとして扱われるキャップですが、単独でリサイクルに回せる資源です。集めやすさと分別への協力を狙って、項目としています。

### ■概要

エコマーク、紙パック、ペットボトルのキャップを集め、集めた数でエコポイントを獲得する。収集後は、文具やプール利用券と交換することで、家庭での参加の促進を図る。

### ■実施期間

夏休み期間（7/21～9/1ごろ）

### ■対象

池田町内小学生

### ■内容

#### ①ポイント対象物を集めてエコポイントをもらう

エコマーク（環境配慮商品についているマーク）を10枚 …1ポイント

紙パックを10枚集める …1ポイント

ペットボトルのキャップを10個集める …1ポイント

#### ②10ポイントためて、文具類と交換

交換商品

ノート 1冊 鉛筆4本 鉛筆2本、消しゴムセット

プール利用券

#### ③B&G海洋センター プール利用券の取り扱い

交付

キャンペーン用の利用券を作製して、商品交換時に利用券を2枚交付する

利用券には、「つかえる君スタンプ」を押印し、このスタンプがないものは、無効とする。

海洋センターで、エコポイントカードとプール利用の交換ができるものとする。

#### ④エコポイントカード、マーク収集用紙の配布と賞品交換場所・日時

エコポイントカード、マークの収集シートは夏休み前に配布し、児童に説明する（学校と調整）





エコポイント 2005 夏のキッズキャンペーン 

# さがして、 あつめて、 もらおう！

**エコマーク**  
**かみパック**  
**ペットボトルのキャップ**

かんずうにやさしい「エコどうどろ」は ちきゅうをまもるんだ。  
2005ねんの きみたちへの「エコどうどろ」しれいだ。  
エコマーク、かみパック、ペットボトルキャップをあつめること！  
みんなであつめて、B&Gプールけんやりサイクルふんぐをもらおう！

2005年 7/21 から  
**9/1** まで  
※B&Gプール券は8/31まで

*キッズエコポイント専用シートが取り寄せ お問い合わせは 44-8004 (きこみ電話に)*



